

秀賞

「夢へ向かって」

新潟県長岡市立東中学校

3年 吉田 結

AKB48、お母さん、陸上のオリンピック選手、美容師、絵本作家、アナウンサー……。これは私の今までの将来の夢です。そして、現在の将来の夢は、養護教諭になることです。私に養護教諭になろうと思わせてくれた、小学校と中学校でお世話になった先生は今でも大切に、尊敬する存在です。

私は小学生の頃、学校に通うことが苦痛な時期がありました。しかし、学校を休むことはありませんでした。なぜなら、保健室に行くと、朝日のように優しい笑顔の先生が、

「どうしたの？ 具合が悪い？」

と私を迎え入れてくださったからです。私は、先生の笑顔と声を聞くと安心して「学校に来てよかった」という気持ちになりました。保健室では、先生にたくさんのお悩みを聞いていただきました。先生は毎回、私の話を決して否定せず、真剣に聞いてくださいました。そして、

「こうしたらどうかな？」

と的確なアドバイスをし、明るく励ましてくださいました。すると、心が軽くなり「大したことない！」とポジティブな気持ちになりました。また、生徒の具合が悪い時は、どのように対処するかを冷静に判断し、臨機応変に行動されていました。実際に、私が捻挫をした時の先生の対応は早く、痛くて泣いていた私を心配し、

「痛かったね～。もう大丈夫だからね。」

と声をかけ続けてくださいました。そんな姿を見て、養護教諭に憧れ、将来の夢になっていきました。

中学校に入学して、初めて保健室に入った時のことは、今でも思い出します。トラブルが起こり、悔しくて先生に話を聞いていただきたかったからです。私は話している間、必死に涙をこらえていました。それは中学生になったのに、保健室で泣いているということがみっともないと思ったからです。先生は隣で、静かに話を聞いてくださいました。そして、私が話し終わると、私の目を見て、

「大きな声を出して泣いていいんだよ。あなたと私しかいないんだから。」

とおっしゃいました。その言葉を聞いた瞬間、私の心に絡まっていた鎖のようなものが解け、ぼろぼろと涙がこぼれました。先生は私が泣いている間、ずっと肩に手を添えていてくださいました。

この日から、私は先生との関わりが増えていきました。先生に話したいことがあると、すぐに保健室に行って話しました。先生は私が辛い体験をした際は肩をさすりながら話を聞き、自慢話をすると褒めてくださいました。先生とおしゃべりした時間は、とても楽しくて、今となっては、かけがえのない時間だったと思います。先生が雑巾を干していた時は手伝い、

「二人だと早く進むね～。ありがとうね。」

と感謝され、先生の役に立てたことに大きな喜びを感じました。

文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」のいじめ統計によると、令和3年度には、国公私立、小中高、特別支援学校の全学校中、79.9%の割合でいじめがあったそうです。小学校は物理的ないじめ、中学校からは精神的ないじめが多く、状況によって対応を変えていくことが重要です。いじめの発見は、アンケートの割合が一番高く、教職員自らがいじめを発見するのは、小中とも十数%にとどまっています。さらに、精神保健の専門知識をもつ「養護教諭」「スクールカウンセラー」への相談割合は、小中学校では友達より低くなっているのが現状です。しかし、養護教諭やスクールカウンセラーの助けを得ながら、自分の言葉で語ることで自己肯定感を回復させることができるため、その役割をもっとアピールしていく必要があります。相談後には80.1%が解決し、19.7%は解決に向けて進むというデータがあります。

このような経験やデータを踏まえて、養護教諭になりたいという思いは日増しに強くなっていきました。私は未来の自分に胸を張れるように、毎日コツコツと勉強し、努力を積み重ねています。また、広い視野で物事を見て悩んでいる仲間の相談に乗り、その人に合った解決方法を提案できるようにしています。もし、夢が叶ったら、子どもたちが明るく楽しい学校生活を送れるよう、心身ともにサポートしたいです。また、子ども一人一人にどう寄り添えるのか常に考え、子どもたちの成長を笑顔で見守ることのできる優しい先生になりたいです。そして、いつか私に養護教諭の夢を与えてくれた先生にお会いできたら、「もう、すぐに泣く弱い私ではありません！先生のおかげで心も体も強くなりました。私も先生方のように子どもたちを支えられる養護教諭になりました。」と伝えたいです。